

提 言



～ 地域の協働を育むために ～ 多様な人材を生かした 組織活動へ



高梨子 文恵

東京農業大学 国際食料情報学部 教授

たかなし・ふみえ／1979年千葉県生まれ。専門は農業経済学。博士（農学）。2009～2011年、北海道大学に博士研究員として勤務、2年間JAきたみらい訓子府支所内で地域研究を行う。その後、広島大学、弘前大学を経て、2020年に東京農業大学に赴任、2024年4月より現職。近編著に『地域の社会と経済を学ぶ』（筑波書房）など。教育文化活動をテーマにした第8回懸賞論文（家の光文化賞農協懇話会主催）審査委員。

かつて農協女性部をはじめ、女性たちの日々の暮らしや営農の視点から、地域のなかで産直活動や自給運動、助けあい活動などが生まれてきた。現在、JAの組織活動に参加するメンバー数が減少しているなか、多様な人材を生かした組織運営が重要であると指摘する。心豊かな地域づくりの実践には、JA組織活動が大きな役割を果たすことができると期待を込める。

■ 女性の声から様々な地域活動が生まれた

10年以上前に、北海道内のJAきたみらいのフレッシュミズ会員として活動していた時期がある。大学の研究員としてJA内に机を置かせていただき、職員のみなさんにも、組合員のみなさんにも大変お世話になった。教員になった後もフィールドワークは続けており、全国様々なJAにお世話になってきたが、あの時が一番農家さんと密にやり取りをしたと思う。

JA女性組織のメンバー数が最も多かったのは1958年で、約344万人のメンバーが全国にいたと言われている（ちなみに2023年のメンバー数は38万人

なので、実に1/10近くまで減少している)。その頃とは比べようもないくらい農村女性をめぐる状況は変化したが、2010年頃の北海道農村でも、家庭内・集落内で女性は完全に解放されていたとは言えなかったと思う。特にフレッシュミズ会員の中心である若手女性たちは、声をあげにくいなどの困難は残っていた。しかし、当時のメンバーは、家庭生活を支え、家族経営の担い手としてよく働き、自分と家庭のことだけでなく地域の問題にも気を配れる人たちばかりだった。彼女たちは積極的に家庭、農業、地域の担い手であろうとする意欲があり、経営や農作業に関する学びに非常に貪欲だった。私が在籍していたのはわずか2年間だったが、その間でも、フレッシュミズとしてJA内の異なる立場の人たちとやり取りを重ねるうち、女性たちの声がJAや町の農政に届き、彼女たちの日々の生活・営農のなかから様々な地域活動がうまれるのを目の当たりにすることができた。そして、その活動は今、地域の一部を形づくっている。

■ JA組織活動を地域づくりの実践の場に

あれから10年以上経ったが、JAの組合員組織活動によって地域で協働が生まれ、それが育つことで地域をつくっていくという、本質に変わりはないと思う。ただ、農業と農村をめぐる現場は大きく変わった。2010年代の北海道では、フレッシュミズ会員はほとんど農家だったが、現在の都府県では非農家の会員率が増加しており、組合員が多様化していることが指摘されている。農業の担い手も多様化が指摘されているが、地域の担い手も多様化しており、農村地域では地域内に居住する人たちだけでなく、その地域と関係し、愛着を持つ「関係人口」も重要視されつつある。また、2000年代以降、地域活動を促進させるための制度は様々構築されており、NPO法人や一般社団法人等の設立も増加している。



J A南アルプス市のフレッシュミズは多様なメンバーで構成し、地域の農と食を中心にした活動を展開している(写真提供/J A南アルプス市)

先日、2022年に設立されたというJ A南アルプス市(山梨県)女性部フレッシュミズの活動についてお話をきく機会があった。代表を務めていたのは神奈川

県から移住した片山さんで、他のJ Aフレッシュミズ同様、女性たちの小さな困りごとを話し合い、実際の活動に落とし込んでいた。しかし、メンバーには非農家も在籍しており、農家のメンバーでも経営内容は多様で、他の団体等と掛け持ちで活動を行っている人が大半である。彼女たちは、地域の食育や教育、環境保全など、J Aフレッシュミズ以外でも、独自に異なる地域活動を、異なる組織で行っている。フレッシュミズとして活動する時は、これまでJ A女性部が積み上げてきたもの、地域の農と食、環境を次の世代につなぐ活動を中心に行う、というように、組織に応じて活動の軸を変えている。

このように、農業と地域をめぐる環境が変化する中で組合員組織活動を維持・促進するためには、J Aは柔軟な対応が求められるだろう。加えて、地域内外の他組織と積極的に連携する姿勢が求められると思う。もちろん簡単なことではないが、J A組合員組織活動が地域づくりの実践の場として大きな役割を持っていることは間違いない。今後も組合員の拠り所として、そして協働と地域文化・価値創造の起点としての役割を期待したい。